

達第六十一號

大東亞戰爭中捕獲セル英國未成掃海艇二隻ヲ帝國艦艇籍ニ編入シ左ノ通命名ス

昭和十八年四月一日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

第二海軍工作部ニ於テ建造

第一百一號掃海艇

第一百二號掃海艇

達第六十二號

大東亞戰爭中捕獲セル和蘭國未成哨戒艇二隻及同掃海艇一隻ヲ帝國特務艇籍ニ編入シ左ノ通命名ス

昭和十八年四月一日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

第一百二海軍工作部ニ於テ建造

第一百十四號驅潛特務艇

第一百十五號驅潛特務艇

達

一三五

0156

第百五號掃海特務艇

達第六十三號

大東亞戰爭中捕獲セル米國掃海艇「フインチ」ヲ帝國艦艇籍ニ編入シ左ノ通命名ス

昭和十八年四月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第百三號哨戒艇

達第六十四號

大東亞戰爭中捕獲セル和蘭國掃海艇一隻、同監視兼掃海艇二隻及同魚雷艇三隻(第百二海軍工作部保管)ヲ帝國特務艇籍ニ編入シ左ノ通命名ス

昭和十八年四月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第百十六號驅潛特務艇

第百六號掃海特務艇

0157

第一百七號掃海特務艇
 第一百五號魚雷艇
 第一百六號魚雷艇
 第一百七號魚雷艇

達第六十五號

雇員傭人臨時勤績加給支給規則中左ノ通改正ス

昭和十八年四月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第四條第二號中「召集」ノ上ニ「徵集又ハ」ヲ加フ
 別表中

九年以上勤績ノ者	五〇〇	一六
九年以上勤績ノ者	五〇〇	一六
十二年以上勤績ノ者	六〇〇	二〇

達

一三七

0158

達

一三八

十五年以上勤績ノ者	七〇〇	二三
二十年以上勤績ノ者	八〇〇	二六
二十五年以上勤績ノ者	九〇〇	三〇
三十年以上勤績ノ者	一〇〇〇	三三

ニ改ム

達第六十六號

國産品使用取扱規程ハ之ヲ廢止ス

昭五五年達第九七号

昭和十八年四月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

(會計法規集四卷三八七頁参照)

海軍諸則
則登載

達第六十七號

海軍文官進級増俸取扱規則中左ノ通改正ス

昭和十八年四月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

0159

第二條 高等文官同待遇者及別表第一號所屬ノ判任文官同待遇者ノ進級増俸ハ海軍大臣之ヲ行ヒ共
ノ他ノ判任文官同待遇者ノ増俸ハ勤務廳所在地ノ海軍區ヲ管スル鎮守府司令長官ニ之ヲ委任ス但
シ鎮守府又ハ警備府所屬艦船乗組ノ判任文官ノ増俸ハ共ノ艦船所屬又ハ當該警備府所在ノ海軍區
ヲ管スル鎮守府司令長官之ヲ行フモノトス

鎮守府司令長官増俸ヲ行ヒタルトキハ直ニ海軍大臣ニ報告スベシ

第三條中「定期増俸」ヲ「定期進級増俸」ニ改ム

第四條第二項中「所屬長官」ヲ「直屬上官ヲ經テ増俸ヲ委任セラレタル鎮守府司令長官」ニ改ム

第五條中「所屬長官」ヲ「鎮守府司令長官」ニ改メ別表第一號中「要港部（海軍警査ヲ除ク）」及

「駐滿海軍部」ヲ削リ「海軍航空本部」ノ次ニ「海軍施設本部」ヲ、「水路部」ノ次ニ左ノ如ク加

フ

艦隊所屬ノ艦船部隊

特別機關

鎮守府管區以外ニ在ル海軍各部

（諸例則卷三、二三一頁參照）

達

一三九

0160

海軍諸則
則登載

達第六十八號

海軍水雷學校規則中左ノ通改正ス

昭和十八年四月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

達

一四〇

第四條中「海軍水雷學校附ノ」ヲ「海軍水雷學校勤務ノ」ニ改ム

第五條中「教官」ヲ「研究部長」ニ、「研究調査」ヲ「研究、實驗及調査」ニ改メ同條第二號中「研究」ノ下ニ「及實驗」ヲ加フ

第十八條中「二種」ヲ「三種」ニ改メ同條ニ左ノ一號ヲ加フ

三 特修科水雷術練習生

第十九條中「海軍一、二等水兵」ヲ「海軍水兵長、上等水兵」ニ、「海軍三等水兵」ヲ「海軍一等水兵」ニ改ム

第二十一條中「海軍二等兵曹」ヲ「海軍一等兵曹」ニ、「海軍三等兵曹」ヲ「海軍二等兵曹」ニ、「海軍一等水兵」ヲ「海軍水兵長」ニ改ム

第二十二條 特修科水雷術練習生ハ海軍上等兵曹又ハ進級賞役停年ヲ有スル海軍一等兵曹ニシテ左

0161

ノ各號ニ該當スルモノノ中ヨリ之ヲ選拔ス

一 品行方正ナル者

二 射手、縦舵機調整手ト爲スニ適當ナル性能學力ヲ有スト認ムル者

三 高等科水雷術練習生教程ヲ卒業シタル日ヨリ一年以上海上勤務ニ服シ其ノ特技章ヲ有スル者

第二十五條第五項中「高等科水雷術練習生」ノ下ニ「又ハ特修科水雷術練習生」ヲ、同條第六項中

「第二十一條」ノ下ニ「又ハ第二十二條」ヲ加フ

第三十六條ニ左ノ一號ヲ加フ

七 特修科水雷術練習生 六月以内

別表第二中勤務日數ノ記入例「高等科練習生」ノ下ニ「又ハ特修科練習生」ヲ、「第二十一條」ノ下

ニ「又ハ第二十二條」ヲ加ヘ「記入ス」ヲ「記入ス特修科練習生ニ在リテハ最近ノ三勤務艦船名

(役務附記) 竝ニ其ノ配置及期間ヲ併記ス」ニ改ム

達第六十九號

艦營需品定額表中左ノ通改正ス

達

一四一

0162

昭和十八年四月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

砲術長 主管

他主管ニ供給スル備品及消耗品内譯中

區別	品名	數稱	記	事
削除	備品	手提電燈乙	個	
同	同	電池乙	個	
同	消耗品	充電用撥金	個	
同	同	乾電池乙	個	

水雷長 主管
 砲術長 主管 ヨリ供給ヲ受クル備品中「手提電燈乙」「電池乙」及消耗品中「乾電池乙」ヲ削ル

機關長 主管
 砲術長 主管 ヨリ供給ヲ受クル備品中「手提電燈乙」「電池乙」及消耗品中「充電用撥金」「乾電池乙」ヲ削ル

0163

達第七十號

吳海軍工廠ニ於テ建造中ノ軍艦一隻ニ左ノ通命名セララル

昭和十八年四月五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

軍艦 伊吹 (イブキ)

達第七十一號

昭和十七年度ニ於テ建造ニ着手ノ潜水艦三隻、海防艦一隻、掃海艇二隻及特務艇二隻ニ左ノ通命名ス

昭和十八年四月五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

横須賀海軍工廠ニ於テ建造

伊號第五十四潜水艦

川崎重工業株式會社ニ於テ建造

呂號第百十四潜水艦

達

0164

達

呂號第百十五潜水艦

三井造船株式會社玉工場ニ於テ建造

海防艦 若 宮 (ワカミヤ)

株式會社東京石川島造船所ニ於テ建造

第二十九號掃海艇

三菱重工業株式會社横濱船渠ニ於テ建造

第三十三號掃海艇

株式會社名村造船所ニ於テ建造

第十八號掃海特務艇

浪速船渠株式會社ニ於テ建造

第二十號掃海特務艇

○正誤

「達第七十號經營需品定額表」改正ス」ヲ「達第七十二號」ニ、非九頁ニテ訂正シ畢

本順次線下ナ

一冊

0165

達第七十號

艦營需品定額表中左ノ通改正ス

昭和十八年四月六日

海軍大臣 嶋田繁太郎

主計長 主管

追加	同	改正	追加	區
消耗品	同	同	備品	別
一二			九	類別
五五			八一	番號
陸			陸	區供給
烹	同	同	配	品
炊			食	
下			器	名
駄	小	大	特大	
組	個	個	個	數稱
陸上部隊烹炊員用	同	兵員用	增加食ヲ給スル兵員用	摘
新規設定	同	番號改正	新規設定	要
				記
				事

達

一四群

0166

達第七十三號

昭和十七年達第六十八號中左ノ通改正ス

昭和十八年四月七日

海軍大臣 嶋田繁太郎

構造標準ヲ左ノ如ク改ム
構造標準

事項	構造
護岸	一、空積石垣又ハ木柵トス 二、石垣根石「コンクリート」塊ハ取止メ梯子胴木又ハ梓工トス 三、笠石「コンクリート」ハ廢止シ特ニ要スル場合ハ切石造トス
舟艇引揚場、滑走臺	張石トシ已ムヲ得ザル場合ニハ「コンクリート」版トス
繫船柱	成ルベク杭打工ヲ供用シ「コンクリート」量ヲ節減ス
排水用開渠	一、原則トシテ素堀トシ狀況ニ依リ木造又ハ石造トス 二、雨落下水及小下水ハ木造ヲ主トシ狀況ニ依リ半土管等ヲ使用ス

達

一四七

0167

高 架 水 槽	水 槽 (洗滌池、澱過池、配水池、防 火水槽等)	擁 壁	橋 梁	建 物 連 絡 通 路	道 路 及 構 内 通 路	格 納 庫 其 他 前 庭 鋪 裝	飛 行 場 表 面 排 水 渠	排 水 用 暗 渠	
木造ヲ主トス	三、上家ハ木造トス 二、重力式側壁構造ヲ採用スル場合ハ粗石又ハ玉石「コンクリート」造トス 一、重力式側壁構造ハ成ルベク之ヲ避ケ斜面型式トス	空積石垣又ハ木柵トス	木造ヲ主トス	砂利、石又ハ煙瓦敷トス	砂利敷トス但シ將來鋪裝ヲ要スル箇所ハ水締「マガダム」程度トス	基礎割栗石ヲ十分輾壓シ、硬練均シ「コンクリート」ヲ施工ス	下部ハ石造又ハ煉瓦造ヲ主トシ、蓋部ハ「コンクリート」造又ハ、 鐵筋「コンクリート」造トス	土管又ハ石造トス	三、溝蓋ハ木製又ハ切石ヲ主トス

0168

達

大塊 コンクリート <small>(方塊、壓塊、建物基礎、重方式油槽側壁ノ裏側、橋梁等)</small>	極力割石、粗石、玉石等ヲ混入セシム
基礎	成ルベク木杭ヲ使用ス
法 面 階 段	石造又ハ柵(シガラ)階段トス
井 戸 側	土管又ハ桶梓トス
辨 樹	石造又ハ煉瓦造トス但シ小型ノモノハ木造又ハ土管トス
門	木造トス
灰 捨 場	煉瓦又ハ石造トシ床ハ土間ノ儘トス
塵 捨 場	木造トス
石 炭 置 場	木造トシ床「コンクリート」ハ實施セズ
建 物 形 状	體裁ノ爲凹凸ヲ避ク
玄 關 車 寄	廢止ス但シ狀況ニ依リ木廳舎ハ此ノ限ニ非ズ
「テ ラ ス」	廢止ス
一、構造計算ニ際シ側壁、間仕切壁ヲ耐震壁ト看做ス	

一四九

0169

達

造計算	鐵筋コンクリート造建築物	二、断面計算ニハ梁ハ「スラブ」ノ一部ヲ、柱ハ側壁ノ一部ヲ算入ス
外	壁	特殊ノモノヲ除キ厚サハ一五〇耗以下トシ單筋トス
胸	壁	廢止ス
内	壁	耐震壁、防火壁其ノ他特殊ノモノヲ除キ木造トス
階	段	木造トス
地	中	梁
庇	梁	架構上無意味ナルモノヲ極力廢止ス
事務所、研究所等構造上已ムヲ得ズ鐵筋「コンクリート」造ト爲シタルモノ		鐵筋「コンクリート」造、煉瓦造建物ニ於テモ木造トス
耐震構造ニ於ケル起爆層		架構ノミ鐵筋「コンクリート」造トシ床、壁、屋根ハ木造トス
木造建築物基礎		割栗「コンクリート」トス
間仕切下基礎		柱下ノミトシ布打ハ廢止ス尙重量輕微ナルモノハ玉石トス
		木造又ハ石束ヲ使用シ已ムヲ得ザル場合ノミ「コンクリート」東トス

一、東

0170

達

階	出入口前	犬走り	其ノ他ノ床	工員會食場、更衣所、衛兵詰所ノ床	應舎、兵舎、講堂、病舎等ノ室内廊下及玄關廣間床	煉瓦積「モルタル」	煉瓦造建物外部	外壁化粧「モルタル」塗	腰「コンクリート」	東	床
石造ヲ建前トス	砂利敷トス	砂利敷トス	土間、板張、砂利敷、石敷、三和土等トシ已ムヲ得ザル場合ハ基礎地形ヲ十分ニシ敷均シ「コンクリート」打トス	木造トス	木造トス	強度上差支ナキ限り石灰「モルタル」トス	化粧積トス	廢止ス、小壁、窓間、妻等モ下見板張トス	全般ニ涉リ廢止ス	石材又ハ玉石トス	木造トス

0171

達

靴洗場	砂利敷トシ水槽ハ桶(物品)ヲ使用ス
洗濯場	流シ式ヲ廢シ水溜式トシ床ハ石、煉瓦又ハ均シ「コンクリート」トス
大便所	木造トス
小便所ノ隔板	木造トス
洗出塗仕上	廢止ス
研出塗仕上	必要以外ハ廢止ス
屋外電線及暖房配管	暗渠ヲ廢止シ架空式ヲ建前トス
溜水及蓋	木造、石造又ハ煉瓦造トス
汚水淨化槽	煉瓦造トス
周圍柵堀	木造又ハ生垣トシ地方ニ依リ石又ハ煉瓦造トス

参照 昭和十七年達第六十八號ハ當分ノ間「セメント」節約上土木建築工事ノ構造標準ノ件ナリ

下五〇

0172

海軍諸例
則登載

達第七十四號

海軍工作學校規則中左ノ通改正ス

昭和十八年四月八日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第四條中「學校附」ヲ「海軍工作學校勤務ノ」ニ改ム

第五條中「教官」ヲ「研究部長」ニ、「研究調査」ヲ「研究、實驗及調査」ニ改メ同條第二號中「研究」ノ下ニ「及實驗」ヲ加フ

第十一條中「機關科將校」ヲ「兵科將校」ニ改ム

第十三條中「機關科將校」ヲ「兵科將校」ニ、「工作科特務士官及准士官」ヲ「兵科特務士官及工作科准士官」ニ改ム

第十四條及第十五條中「工作科特務士官及准士官」ヲ「兵科特務士官及工作科准士官」ニ改ム

第二十一條中「海軍三等工作兵曹」ヲ「海軍二等工作兵曹」ニ、「海軍一等工作兵」ヲ「海軍工作兵長」ニ改ム

第二十二條中「海軍二等工作兵曹」ヲ「海軍一等工作兵曹」ニ、「海軍三等工作兵曹」ヲ「海軍二等

達

一五四

0173

海軍諸則
則登載

達

工作兵曹」ニ、「海軍一等工作兵」ヲ「海軍工作兵長」ニ改ム
別表第一技能ノ項中「特修科」ヲ「専修科」ニ改ム

達第七十五號

海軍技手養成所規則中左ノ通改正ス

昭和十八年四月八日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第一條及第十一條中「又ハ海軍航空本部長」ヲ「海軍航空本部長又ハ海軍省軍需局長」ニ改ム
第二條、第四條、第十八條、第二十四條第三項及第三十三條中「又ハ海軍航空技術廠長」ヲ「海軍航空技術廠長又ハ第一海軍燃料廠長」ニ改ム
第五條第一項中「及機械工作科」ヲ「機戒工作科及金屬材料科」ニ改メ「材料科」ノ下ニ「
第三海軍技手養成所ニ燃料科及化學機械科」ヲ加フ
第九條及第三十二條中「又ハ海軍航空技術廠長」ヲ「海軍航空技術廠長又ハ第一海軍燃料廠長」
ニ、「及海軍航空技術廠長」ヲ「海軍航空技術廠長及第一海軍燃料廠長」ニ、「又ハ海軍航空本
部長」ヲ「海軍航空本部長又ハ海軍省軍需局長」ニ改ム

一五四

0174

第十二條、第二十一條、第二十三條及第二十六條中「又ハ海軍航空本部長」ヲ、「海軍航空本部長
又ハ海軍省軍需局長」ニ、「又ハ海軍航空技術廠長」ヲ、「海軍航空技術廠長又ハ第一海軍燃料廠長」

ニ改ム

第十三條第一號ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ豫備工作兵タル者ハ二十年ニ滿タザル者モ選拔スルコトヲ得

同條第二號中「三年以上」ヲ「二年以上」ニ改メ「勤務年數ヲ有スル者」ノ下ニ「海軍工員養成所

選科ヲ終了セル者又ハ甲種工業學校卒業者」ヲ、「前後」ノ下ニ「ノ勤務年數」ヲ加フ

第十七條中「及海軍航空技術廠長」ヲ、「海軍航空技術廠長及第一海軍燃料廠長」ニ、「又ハ海軍

航空技術廠長」ヲ、「海軍航空技術廠長又ハ第一海軍燃料廠長」ニ改ム

第十九條中「及海軍航空技術廠」ヲ、「海軍航空技術廠及第一海軍燃料廠」ニ改ム

第二十條中「第三學年」ヲ「第四學年」ニ改ム

第二十二條第一項中「又ハ海軍航空技術廠」ヲ、「海軍航空技術廠又ハ第一海軍燃料廠」ニ、同條

第二項中「又ハ海軍航空技術廠長」ヲ、「海軍航空技術廠長又ハ第一海軍燃料廠長」ニ改ム

第一號、第二號、第四號及第五號書式中「第一（第二）」ヲ「第〇」ニ改ム

達

二五五

0175

達

第三號書式中

「機械工作科」

ノ下ニ

「金屬材料科」

ヲ、

「材料科」

ノ下ニ

「燃料科
化學機械科」

ヲ、

「(海軍航空技術廠長)」

ノ下ニ

「(第一海軍燃料廠長)」

ヲ加フ

本達ハ昭和十八年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

一五
附六

0176

達第七十號

海軍給與令施行細則中左ノ通改正ス

昭和十八年四月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第十一條第二項中「内地」ノ下ニ「樺太ヲ除ク以下之ニ同ジ」ヲ加フ

第十五條第四項中「軍人恩給法」ヲ「恩給法」ニ改ム

第二十七條第一號中「樺太」ノ下ニ「北海道」ヲ加フ

第三十八條中「樺太」ノ下ニ「北海道」ヲ、「陸地療養中」ノ下ニ「北海道ヲ除ク」ヲ加フ

第四十條中「同第三項ノ加俸ハ第三表」ヲ削ル

第四十條ノ二第一項中第二號ヲ第四號、第三號ヲ第二號、第四號ヲ第三號トシ同條第二項中「給與令第三十四條第四項」ヲ「給與令第三十四條第三項」ニ改ム

第四十一條 准士官及下士官兵任用、進級ノトキ、豫備役、免官、免役ト爲リタルトキ、歸休ヲ命

ゼラレタルトキ、召集セラレタルトキ又ハ召集ヲ解カレタルトキハ左ノ區分ニ依リ加俸ヲ支給ス

一 優等章ヲ有スル者又ハ教員ノ職ヲ奉ズル者准士官ニ進級シタルトキ及准士官ニシテ給與令第三十四條第二項ニ依リ加俸ヲ受ケタルモノ特務士官ニ任用セラレタルトキハ辭令ノ日ノ前日迄

達

一五五

0177

二 豫備役、免官若ハ免役ト爲リ又ハ下士官兵歸休ヲ命ゼラレタルトキハ艦團共ノ他ノ各部ヲ離ルル日迄

三 善行章又ハ特技章ヲ有スル下士官兵召集セラレタルトキハ入團ノ日ヨリ召集ヲ解カレ艦團共ノ他ノ各部ヲ離ルル日迄

四 給與令第三十四條第二項ニ依リ加俸ヲ受ケタル准士官召集セラレタルトキハ指定地ニ到著ノ日ヨリ召集ヲ解カレタル日迄

第四十三條ノ三 給與令第三十五條ノ二ニ依リ加俸ヲ停止スルハ第四十二條及第四十三條ノ例ニ依ル

第四十六條中「第三表ノ二」ヲ「第三表」ニ改ム

第六十條ノ三中「第三表ノ三」ヲ「第三表ノ二」ニ改ム

第一表ノ二ヲ別表ノ一ノ如ク改ム

第二表ヲ別表ノ二ノ如ク改ム

第三表ヲ削リ第三表ノ二ヲ第三表、第三表ノ三ヲ第三表ノ二トス

附則

0178

海軍諸則
第七十號

達第七十號

海軍航海學校規則中左ノ通改正ス

昭和十八年四月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第四條中「海軍航海學校附ノ」ヲ「海軍航海學校勤務ノ」ニ改ム

第五條中「教官」ヲ「研究部長」ニ、「研究調査」ヲ「研究、實驗及調査」ニ改メ同條第二號中「研究」ノ下ニ「實驗」ヲ加フ

第十九條 練習生ヲ左ノ八種ニ區別ス

- 一 普通科運用術操艦練習生
- 二 普通科運用術應急練習生

本達ハ昭和十八年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

現ニ准士官ニシテ本達適用前准士官ニ進級シタルモノ共ノ際普通善行章、特別善行章又ハ特技章ヲ有シタルトキハ従前有セシ普通善行章、特別善行章又ハ特技章ニ對シ第二表ニ依リ加俸ヲ支給ス

(別表二葉添)

達

一五七

0179

- 三 普通科信號術練習生
 - 四 普通科氣象術練習生
 - 五 高等科運用術操舵練習生
 - 六 高等科運用術應急練習生
 - 七 高等科信號術練習生
 - 八 高等科氣象術練習生
- 前項第一號及第二號ニ掲グル練習生ヲ普通科運用術練習生ト總稱ス
- 第二十條中「海軍一、二等水兵」ヲ「海軍水兵長、海軍上等水兵」ニ、「海軍三等水兵」ヲ「海軍一等水兵」ニ改ム
- 第二十一條ノ二及第二十一條ノ三中「海軍二等兵曹」ヲ「海軍一等兵曹」ニ、「海軍三等兵曹」ヲ「海軍二等兵曹」ニ、「海軍一等水兵」ヲ「海軍水兵長」ニ改メ第二十一條ノ二ヲ第二十一條ノ三、第二十一條ノ三ヲ第二十一條ノ四トス
- 第二十一條ノ二 普通科氣象術練習生ハ左ノ各號ニ適合スル水兵ニシテ海兵團ニ於テ規定ノ教育ヲ修了シタルモノヲ採用ス

一 品行方正ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

二 掌氣象兵ト爲スニ適當ナル性能學力ヲ有スト認ムル者

第二十二條中「海軍三等兵曹」ヲ「海軍二等兵曹」ニ、「海軍一等水兵」ヲ「海軍水兵長」ニ改ム

第二十二條ノ二 高等科氣象術練習生ハ海軍二等兵曹又ハ海軍水兵長ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノノ中ヨリ之ヲ選拔ス

一 品行方正ナル者

二 掌氣象ノ要務ヲ執ラシムルニ適當ナル性能學力ヲ有スト認ムル者

三 普通科氣象術練習生教程ヲ卒業シタル日ヨリ六月以上海上勤務又ハ航空勤務ニ服シ其ノ特技章ヲ有スル者

第二十五條第五項中「普通科信號術練習生」ノ下ニ「又ハ普通科氣象術練習生」ヲ加フ

同條第六項中「第二十一條」ノ下ニ「又ハ第二十一條ノ二」ヲ加ヘ「掌信號兵候補者」ヲ削ル

同條第七項中「又ハ高等科信號術練習生」ヲ「高等科信號術練習生又ハ高等科氣象術練習生」ニ改ム

同條第八項中「第二十一條又ハ第二十二條」ヲ「第二十一條ノ三乃至第二十二條ノ二」ニ改ム

達

一
二

0181

達

第三十四條 海軍航海學校學生及練習生ノ修業期間ヲ左ノ如ク種別ス但シ時宜ニ依リ多少伸縮セシ

ムルコトアルベシ

一	航海學生	一年
二	運用學生	一年
三	普通科學生	二月
四	特修科學生	一年以内
五	專攻科學生	一年以内
六	普通科運用術操舵練習生	六月
七	高等科運用術操舵練習生	六月
八	普通科運用術應急練習生	六月
九	高等科運用術應急練習生	六月
十	普通科信號術練習生	七月
十一	高等科信號術練習生	九月
十二	普通科氣象術練習生	七月

0182

十三 高等科氣象術練習生

七月

附則中「第二十一條ノ二」ヲ「第二十一條ノ三」ニ、「第二十一條ノ三」ヲ「第二十一條ノ四」ニ改ム

別表第二勤務日數ノ項中「第二十一條ノ二又ハ第二十一條ノ三」ヲ「第二十一條ノ三、第二十一條ノ四又ハ第二十二條」ニ改ム

別表第三中「昭和 年度掌信號兵候補者選抜表」ヲ「昭和 年度掌信號兵（氣象兵）候補者選抜表」ニ改ム

附則

本達ハ昭和十八年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

本達施行ノ際從前ノ規定ニ依リ左ノ上欄ニ掲グル練習生トシテ現ニ修業中ノ者ハ本達ニ依ル各其ノ相當ノ下欄ニ掲グル練習生トス

第二十二期高等科信號術練習生（氣象班）	第一期高等科氣象術練習生
第二十三期高等科信號術練習生（氣象班）	第二期高等科氣象術練習生
第九期普通科信號術練習生（氣象班）	第一期普通科氣象術練習生

達

一六五

0183

第十期普通科信號術練習生(氣象班)

第二期普通科氣象術練習生

當分ノ間高等科氣象術練習生ハ第二十二條ノ二第三號ノ規定ニ拘ラズ普通科信號術練習生教程ヲ卒業シタル日又ハ普通科氣象術特技章ヲ附與セラレタル日ヨリ六月以上勤務ニ服シ共ノ特技章ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ選拔スルコトヲ得

(略例則卷一、六五二頁參照)

0184

第一表ノ二

(第二十五條ノニニ依リ朝鮮、臺灣、關東州、樺太、南洋群島及北海道在勤者ニ給スル加俸)

(昭和十八年達第七十四號)

職務	額				見習補生	額			
	甲	乙	丙	丁		甲	乙	丙	丁
各科中將	五九〇	四三〇	一一二〇	一一〇〇	候	一五〇	一三〇	一八〇	二〇〇
各科少將	五二〇	三八五	九五五	七五	准士官	一七〇	一四〇	二五〇	三三
各科大佐	四三五	三二五	八〇五	六〇	上等下士官	七五	六〇	一三〇	二二
各科中佐	三五〇	二六〇	六四〇	五〇	一等下士官	五五	四五	八九	一〇
各科少佐	二八〇	二二五	四九五	四五	二等下士官	四四	三六	七三	〇八
各科大尉	二二〇	一八〇	三五〇	三〇	兵長	三〇	二五	五三	〇七
各科中尉	一八〇	一五〇	二八〇	二五	上等兵	二四	二〇	三八	〇六
各科少尉	一七〇	一四〇	二三〇	二〇	一等兵	二二	一七	三七	〇六
各科大尉	二四五	二〇〇	四〇五	三五					
各科中尉	二二〇	一八〇	三四五	三〇					
各科少尉	二一〇	一八〇	三四五	三〇					

備考	額			
	甲	乙	丙	丁
一 甲トハ北緯三十七度以北ノ朝鮮、臺灣、關東州及樺太、乙トハ北緯三十七度以南ノ朝鮮、丙トハ南洋群島、丁トハ北海道ヲ謂フ	二二〇	一八〇	三四五	三〇
二 豫備准士官ヨリ豫備少尉ニ任用セラレタル者ニ支給スベキ日額丙及丁ハ准士官ノ額ニ依ル	二四五	二〇〇	四〇五	三五
三 高等文官同待遇者ノ加俸ハ甲ニ在リテハ本俸ノ三割、乙ニ在リテハ本俸ノ二割ニ各三百二十四圓ヲ加ヘタルモノ、丙ニ在リテハ本俸ノ六割ニ四百五圓ヲ加ヘタルモノヲ年額トシ丁ニ在リテハ本表ノ官等ニ相當スル額ヲ支給ス但シ高等官六等以下ハ其ノ官等ニ相當スル特務士官ノ額、官等ノ配當ナキ委任待遇者ハ特務士官タル各科少尉ノ額トス	二二〇	一八〇	三四五	三〇
四 判任文官同待遇者ノ加俸ハ甲ニ在リテハ本俸ノ四割、乙ニ在リテハ本俸ノ三割ニ各十五圓ヲ加ヘタルモノ、丙ニ在リテハ本俸ノ十割ヲ月額トシ丁ニ在リテハ判任官一等ハ准士官、同二等以下ハ上等下士官ノ額トス	二二〇	一八〇	三四五	三〇

別表ノ二

教員	優等章	特技章	特別善行章		普通善行章		種類	第二表 (第四十條ニ依リ支給スル加俸)
			三線以上	二線以下	五線以上	四線以下		
十 錢	優等章、見張優等章、操舵優等章、航空優等章、機關運轉優等章、工作優等章、應急優等章	信號術普通科、電信術普通科	砲術特修科、砲術高等科、水雷術高等科、機雷術高等科、測的術高等科、運用術高等科、信號術高等科、電信術高等科、暗號術高等科、氣象術高等科、飛行術特修科、飛行術（飛行練習生教程ヲ卒業シタル者）、航空兵器術高等科、整備術高等科、軍樂術特修科、機關術高等科、內火術高等科、電機術高等科、工作術特修科、工作術高等科、看護術高等科、經理術高等科、衣糧術高等科	十五 錢	一線ニ付 五 錢	十五 錢	一線ニ付 三 錢	日額
十 錢	艦砲射擊優等章、魚雷發射優等章、機雷優等章、通信優等章、見張優等章、操舵優等章、航空優等章、機關運轉優等章、工作優等章、應急優等章	信號術普通科、電信術普通科	砲術特修科、砲術高等科、水雷術高等科、機雷術高等科、測的術高等科、運用術高等科、信號術高等科、電信術高等科、暗號術高等科、氣象術高等科、飛行術特修科、飛行術（飛行練習生教程ヲ卒業シタル者）、航空兵器術高等科、整備術高等科、軍樂術特修科、機關術高等科、內火術高等科、電機術高等科、工作術特修科、工作術高等科、看護術高等科、經理術高等科、衣糧術高等科	十五 錢	一線ニ付 五 錢	十五 錢	一線ニ付 三 錢	日額

(昭和十八年達第七十四號) 六

0186

達第七十八號

海軍共濟組合病院規則中左ノ通改正ス

昭和十八年四月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

題名ヲ左ノ如ク改ム

海軍共濟病院規則

第一條第一項中海軍共濟組合員ノ下ニ「以下組合員ト略稱ス」ヲ加ヘ「診療」ヲ「醫療及保健指導」ニ改ム

第二條 病院ハ左ノ各地ニ之ヲ置キ海軍共濟病院（所在地名ヲ冠稱ス）ト稱ス

大湊、船岡、霞ヶ浦、木更津、東京、横須賀、追濱、横濱、相模野、平塚、沼津、豊川、四日市
鈴鹿、津、舞鶴、姫路、吳、廣、光、徳山、大分、福岡、佐世保、川棚、大村、平壤、鎮海、高雄、臺灣岡山、馬公、旅順

第三條 病院及組合員所屬各應ハ第一條ノ目的達成ノ爲相互ニ氣派ヲ通ジ協力スベシ

第四條 病院ハ左ノ職ニ在ル者之ヲ管理ス

達

一六五

0187

一	東京	所在ノモノ	海軍技術研究所長
二	大湊、鎮海、旅順	同	各警備府司令長官
三	横須賀、豊川、舞鶴、吳、廣、光、佐世保	同	各海軍工廠長
四	馬公	同	海軍工作部長
五	追濱	同	海軍航空技術廠長
六	霞ヶ浦、木更津、大分、大村、臺灣岡山	同	各海軍航空廠長
七	船岡、平塚	同	名海軍火藥廠長
八	横濱、四日市、徳山、福岡、平壤	同	各海軍燃料廠長
九	姫路	同	海軍衣糧廠長
第九條 院長ハ左ノ職ニ在ル者ヲ以テ之ニ充ツ			
一	東京	所在ノモノ	海軍技術研究所醫務部長
二	大湊、鎮海、旅順	同	各海軍病院長
三	横須賀、豊川、舞鶴、吳、廣、光、佐世保	同	各海軍工廠醫務部長
四	馬公	同	海軍工作部員タル首席軍醫科士官

0188

五	追濱	同	海軍航空技術廠醫務部長
六	霞ヶ浦、木更津、大分、大村、臺灣岡山	同	各海軍航空廠醫務部長
七	船岡、平塚	同	各海軍火藥廠醫務部長
八	横濱、四日市、徳山	同	各海軍燃料廠醫務部長
九	福岡、平壤	同	各海軍燃料廠醫務課長
十	姫路	同	海軍衣糧廠部員タル首席軍醫科士官
第十一條中	「其ノ」ヲ「又ハ院長ノ」ニ改メ「軍醫科士官中ヨリ」ノ下ニ「管理官」ヲ加フ		
第十三條中	「其ノ屬スル應」ノ下ニ「(大湊及鎮海ニ在リテハ當該經理部)」ヲ加フ		
第十五條中	「其ノ」ヲ「管理官又ハ院長ノ」ニ改ム		
第十六條中	「及看護婦並ニ助産婦生徒」ヲ「並ニ看護婦及助産婦」ニ改ム		
第十六條ノ二中	「組合ニ關係アル各應」ヲ「組合員所屬各應」ニ改ム		
第三十二條	病院ニ屬スル營造物及備品ハ左ノ各號ニ依リ毎年度末其ノ價格ヲ改定スベシ但シ保存期間ヲ經過シ尙使用ノ見込アルモノハ其ノ保存期間ヲ延長シ價格ハ之ヲ改定セズ		
一	保存期間ニ應ジ價格ヲ遞減ス		

達

一六七

0189

二 當該年度中改築、修繕等ヲ爲シタルモノニ付テハ其ノ費用ヲ加算ノ上保存期間ヲ改定シ其ノ期間ニ應ジテ價格ヲ遞減ス

第四十二條 削除

第四十三條 削除

様式中「海軍共濟組合病院」ヲ「海軍共濟病院」ニ改ム

附 則

本達ハ昭和十八年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

(會計法規類集三卷一八三頁參照)

達第七十九號

海軍共濟組合物資部規則中左ノ通改正ス

昭和十八年四月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

題名ヲ左ノ如ク改ム

0190

海軍共濟物資部規則

第二條 物資部ハ左ノ各地ニ之ヲ置キ海軍共濟物資部（所在地名ヲ冠稱ス）ト稱ス

大湊、船岡、霞ヶ浦、木更津、東京、横須賀、浦郷、横濱、相模野、平塚、沼津、豊川、四日市、鈴鹿、津、舞鶴、姫路、吳、廣、光、徳山、大分、福岡、佐世保、川棚、大村、平壤、鎮海、高雄、臺灣岡山、馬公、旅順

第四條 物資部ハ左ノ職ニ在ル者之ヲ管理ス

- | | | |
|-----------------------|-------|----------|
| 一 東京 | 所在ノモノ | 海軍技術研究所長 |
| 二 大湊、鎮海、旅順 | 同 | 各警備府司令長官 |
| 三 横須賀、豊川、舞鶴、吳、廣、光、佐世保 | 同 | 各海軍工廠長 |
| 四 馬公 | 同 | 海軍工作部長 |
| 五 浦郷 | 同 | 海軍航空技術廠長 |
| 六 霞ヶ浦、木更津、大分、大村、臺灣岡山 | 同 | 各海軍航空廠長 |
| 七 船岡、平塚 | 同 | 各海軍火藥廠長 |
| 八 横濱、四日市、徳山、福岡、平壤 | 同 | 各海軍燃料廠長 |

達

一六九

0191

九	姫路	同	海軍衣糧廠長
第十一條	部長ハ左ノ職ニ在ル者ヲ以テ之ニ充ツ		
一	東京	所在ノモノ	海軍技術研究所會計部長
二	大湊、鎮海、旅順	同	各海軍經理部長
三	横須賀、豊川、舞鶴、吳、廣、光、佐世保	同	各海軍工廠會計部長
四	馬公	同	海軍工作部部員タル首席主計科士官
五	浦郷	同	海軍航空技術廠會計部長
六	霞ヶ浦、木更津、大分、大村、臺灣岡山	同	各海軍航空廠會計部長
七	船岡、平塚	同	各海軍火藥廠會計部長
八	横濱、四日市、徳山	同	各海軍燃料廠會計部長
九	福岡、平壤	同	各海軍燃料廠會計課長
十	姫路	同	海軍衣糧廠會計部長

第十三條中「副部長ハ」ノ下ニ「管理官又ハ」ヲ加フ別表ヲ別表ノ如ク改ム

0192

海軍諸例
則登錄

様式中「海軍共済組合物資部」ヲ「海軍共済物資部」ニ改ム

附則

本達ハ昭和十八年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

(別表一葉添)

(會計法規類集三卷一五九頁参照)

達第八十號

昭和十年達第五百十號海軍共済組合病院積立資金規則ハ之ヲ廢止ス

昭和十八年四月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

達第八十一號

昭和十七年達第二百九十六號ノ表中横須賀海軍經理部名古屋支部ノ項各部ノ欄中「豊橋海軍航空隊」ヲ加フ

本達ハ昭和十八年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

達

一七一

0193

達

昭和十八年四月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

(参照) 前記達號ハ横須賀經理部支部ノ分掌スル所在地各部指定ノ件ナリ

一七二

0194

(別表)

計算及報告書類一覽表

名稱	樣式	調製者	調製期日	所管領守府又ハ警備府へ到達期日	海軍艦政本部へ到達期日
貸借對照表	第九號	部長	每月末日	翌月二十日	翌月末日
損益計算表	第十號	同	同	同	同
現金出納計算表	第十一號	同	同	同	同
事業成績書	第八號	同	三月三十一日	五月三十一日	六月二十日
配給物品受拂表	第十二號	同	同	同	同

(昭和十八年達第七十九號)

0195

海軍諸則
則登錄

達第八十二號

海軍人事部處務規程中左ノ通改正ス

昭和十八年四月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第一條第一課ノ部第一號中「候補生」ノ下ニ「見習尉官」ヲ加フ

第二條表中秋田地方海軍人事部ノ項ヲ左ノ如ク改ム

青森地方海軍人事部 青森縣

秋田地方海軍人事部 秋田縣

同條同表中名古屋地方海軍人事部ノ項及大阪地方海軍人事部ノ項ヲ左ノ如ク改ム

静岡地方海軍人事部 静岡縣

名古屋地方海軍人事部 愛知縣、岐阜縣

津地方海軍人事部 三重縣、奈良縣

大阪地方海軍人事部 大阪府、和歌山縣

達

一七三

0196

同條同表中高松地方海軍人事部ノ項ヲ左ノ如ク改ム

高松地方海軍人事部	香川縣、愛媛縣
高知地方海軍人事部	高知縣、徳島縣

附則

本達ハ昭和十八年四月十五日ヨリ之ヲ施行ス

(諸例則卷一、一六一頁參照)

0197

達第八十三號

艦營需品定額表中左ノ通改正ス

昭和十八年四月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

航海長主管

區別	類別	番號	供給區分	品名	數稱	摘要	記事
改正	備品	六三七	イ	迎航指揮官旗 二巾	枚		迎航統制旗ヲ本品名ニ改ム
同	同		□	同 三巾	枚		
削除	消耗品	二二二		去型測程儀經歷簿	部		

○正誤 

昭和十七年達第三百三十九號中「昭和十七年十二月二十五日」ハ「昭和十七年十二月十五日」ノ誤

達

一七五

0198

海軍諸則
登載

達第八十四號

大正二年達第六十四號中左ノ通改正ス

昭和十八年四月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

鎮海要港ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

高雄要港 桃子園南端及桃子園南端ノ二七〇度六涇ト二層行溪口トヲ連接シタル線以内

(諸例則卷三、三三七頁参照)

海軍諸則
登載

達第八十五號

明治四十二年達第六十九號中左ノ通改正ス

昭和十八年四月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

伊勢灣ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

大島港 戸島崎北端ヲ通ズル零度線以西、出雲崎南端津屋島南端ノ連結線以北ノ海面

達

一七七

0199

羅津灣ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ高雄港ノ項ヲ削ル

高雄要港 桃子園南端及桃子園南端ノ二七〇度六湮ト二層行溪口トヲ連接シタル線以内

(諸例則卷三、三三八頁参照)

達第八十六號

海軍兵備品會計規程中左ノ通改正ス

昭和十八年四月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

別表中兵器ノ項中會計官吏ノ欄「器材部長

※器材部長相當ノ配置ニ在ル廠員」ヲ

「補給部長
※補給部長相當ノ配置ニ

在ル廠員」ニ改ム

附則

本達ハ昭和十八年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

(参照) 會計法規類集四卷一四〇頁

0200

海軍諸則
登載例

達第八十七號

海軍工機學校規則中左ノ通改正ス

昭和十八年四月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第四條中「學校附下士官及兵」ヲ「學校勤務ノ下士官及兵」ニ改ム

第五條中「教官」ヲ「研究部長」ニ、「研究調査」ヲ「研究、實驗及調査」ニ改メ同條第二號中「研究」ノ下ニ「及實驗」ヲ加フ

第十一條中「機關科將校」ヲ「兵科將校」ニ改ム

第十三條中「機關科將校」ヲ「兵科將校」ニ、「機關科特務士官及准士官」ヲ「兵科特務士官及機關科准士官」ニ改ム

第十四條及第十五條中「機關科特務士官及准士官」ヲ「兵科特務士官及機關科准士官」ニ改ム

第二十條中「海軍一、二等機關兵」ヲ「海軍機關兵長及海軍上等機關兵」ニ、「海軍三等機關兵」ヲ「海軍一等機關兵」ニ改ム

第二十一條中「海軍二等機關兵曹」ヲ「海軍一等機關兵曹」ニ、「海軍三等機關兵曹」ヲ「海軍二等

達

一七九

0201

達

機關兵曹」ニ、「海軍一等機關兵」ヲ「海軍機關兵長」ニ改ム

一八〇

0202

海軍諸則
登載

達第八十八號

海軍工員規則中左ノ通改正ス

昭和十八年四月二十一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第四十一條 削除

第四十五條 始業時限ヨリ終業時限迄ヲ服業定時限(以下單ニ定時限ト稱ス)トシ之ヲ九時間十五分トス但シ女工員ニ在リテハ之ヲ七時間四十五分トス

海軍工作廳長ハ定時限内ニ於テ四十五分ヲ以テ食事及休憩時間ニ充ツルモノトス

第四十六條 海軍工作廳長ハ二時間以内ノ増服業者ニ對シ増服業時間内ニ於テ十分、二時間ヲ超ユル殘業者ニ對シテハ更ニ其ノ時間内ニ於テ十五分ヲ以テ休憩及食事時間ニ充ツルモノトス但シ工場ノ準備、整頓又ハ火氣取締等實際ノ工事ニ就カザル者ノ食事及休憩時間ニ關シテハ本項ニ定ムル時間ヲ超エザル範圍内ニ於テ適宜之ヲ定ムルモノトス

晝業、夜業ヲ通ジ服業スル者ニ對シテハ定時限ニ對スル食事及休憩ノ時間ノ外前項ノ規定ニ準ジ食事及休憩時間ヲ定ムルモノトス

達

一八一

0203

第四十七條中「體操」ヲ削ル

第五十五條 臨時終業ヲ命ジタル工員ニ對シテハ給料金額ヲ支給ス

第三十七條ニ定ムル公休日ニハ給料金額ヲ支給ス但シ自己ノ都合ニ依リ公休日ノ前後ヲ通ジ休業シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ場合當日ガ附表第五號ノ不就業日ニ當ルトキハ第六十四條ノ定ムル所ニ依ル

第五十五條ノ二ヲ削ル

第五十七條 工員ヲ定時間外ニ服業セシメタルトキハ其ノ服業ニ對シ附表第三號ニ依リ勤勉加給ヲ支給ス

第五十八條 工員ヲ當直トシテ勤務セシメタルトキ其ノ勤務ニ對スル給與ハ附表第三號ニ依ル

第六十條 工員第三十九條ノ規定ニ依リ豫メ公休日ニ出業ヲ命セラレ服業シタルトキハ第五十五條第二項ノ規定ニ依ル給料及平日服業ノ例ニ依リ諸加給ヲ支給スルノ外附表第三號ニ依ル勤勉加給ヲ支給ス

第六十一條 工員第三十九條ノ規定ニ依リ定時間外又ハ公休日ニ急遽出業ヲ命セラレ服業シタルトキノ給與ハ第五十七條及前條ノ例ニ依ル

0204

第六十二條第一項中「賃錢ノ十分ノ三」ヲ「給料ノ十分ノ四」ニ改メ同條第二項中「賃錢ノ百分ノ三」ヲ「給料ノ百分ノ四」ニ改ム。

第六十三條第一項中「其ノ服業日數ニ對シ一日ニ付賃錢全額以內ノ」ヲ削リ同條第二項中「別ニ之ヲ定ム」ヲ「海軍省經理局長ヲシテ之ヲ定メシム」ニ改ム。

第六十四條中「賃錢全額又ハ一部ニ相當スル」ヲ「所定ノ」ニ改ム。

第六十五條第一項中「賃錢」ヲ「給料」ニ改メ同條第二項中「別ニ之ヲ定ム」ヲ「海軍省經理局長ヲシテ之ヲ定メシム」ニ改ム。

第七十一條第一項中「賃錢」ヲ「給料」ニ改メ同條第三項ヲ削ル。

第七十七條表中「工具賃錢及加給支給月報」ヲ「工具給料及加給支給月報」ニ改ム。

附表目次中「工具賃錢等級表」ヲ「工具給料等級表」ニ改ム。

附表第二號中表題「工具賃錢等級表」ヲ「工具給料等級表」ニ改ム。

附表第三號及附表第五號ヲ別紙ノ如ク改ム。

第八號書式中表題「工具賃錢及加給支給月報」ヲ「工具給料及加給支給月報」ニ、表中「賃錢」ヲ「給料」ニ改ム。

達

一八三

0205